

平成30年度 恵庭ブロックの研究

研究主題

自分のからだと向き合い、自ら選択し表現できる子どもの育成をめざして
～養護教諭のスタンスにたった子どもの支援と役割～

主題設定の理由

私たちはこれまで、「子どものための学校保健」とは何かを問い続けてきた。そして、この3年間は、健康施策の分析をもとに健康診断やアレルギー対応について、養護教諭として大切にしたい観点から「養護教諭のスタンス」を共有し、それを実践につなげた。

近年、子どもたちの健康問題は、複雑であり保健室ニーズも多様化している。保健室では子どもたちとの関わりを通して、様々なケースに応じた支援へとつなげる手立てが必要となっている。そして、養護教諭は子どもの問題の現状とその背景をどのように受け止め、よりよい支援を探っていく役割が求められている。

そこで、今まで研究してきた「養護教諭のスタンス」をもとに、養護教諭としての支援のありかたや方法を研究していくことが、子どもの個々の健康問題の解決の糸口を見出すことにつながると考えた。子どもが解決できる方法を自ら選択し表現できるような支援につなげられるようこの主題を設定した。

研究の仮説

1. 子どもの健康情報（健康カード・各種問診票）の活用を見直すことで、養護教諭として子どもの健康把握の方法や手段を明らかにできる。
2. 各学校の事例を研究することにより、子どもの背景となる現状や問題点を明らかにし、アセスメントの方法を探り支援につなげることができる。
3. 学校・家庭・教職員につなげる手立てを検討することで、養護教諭の役割を明らかにすることができる。

研究内容

1. 健康情報の目的を明確にし、現在使用している健康カードや各種問診票を見直す。
2. 事例検討から、問題の捉え方、受け止め方、つなげ方を様々な角度から学習する。
3. 各養護教諭の支援事例を学ぶことで、自校の健康相談の実践につなげる。

研究方法

1. 健康情報（健康カード）の目的や内容の検討を全体で共通理解し、小中別に改善を検討する。
2. 事例検討を行い、実践へとつなげる。
 - (1) 養護教諭のスタンスに立った支援の方法を検討する。
 - (2) 活用できる支援方法を学習する。
 - (3) 学校・家庭・教職員へつなげる支援方法を検討する。